

1 平成 22 年度に求められる取組

(1) 年間指導計画の作成

- ① 学習内容の系統性や関連性を踏まえ、学年間や学校段階間の接続を意識した指導計画を作成する。
- ② 領域間の指導の関連を図るとともに、指導形態の工夫等についても指導計画の中に位置付ける。
- ③ 適切な反復による学習の機会が柔軟に位置付けられるように配慮する。
- ④ 言語活動を指導計画の中に適切に位置付ける。

(2) 単元や教材の開発

- ① 平成 23 年度からの全面実施を見すえ、平成 22 年度から新たに加わる内容についての教材研究を深める。
- ② 新教育課程の趣旨を生かした授業を計画・実践し、成果を検討する校内研修の充実を図る。

(3) 配慮すべきこと

- ① 新学習指導要領に内容として示してある算数的活動を教育課程に加える場合は、各学校の実態や児童の学習状況に配慮する。また、算数的活動のねらいと実現したい児童の姿を明確にした授業を行うようにする。
- ② 言語活動と指導目標との関係を明らかにし、解説に示されている〔算数的活動〕の内容を参照して、目標実現のために有効な言語活動の場面を適切に設定する。

2 教育課程編成上、参考となる取組例

(1) 1 年〔A 数と計算〕「繰り下がりのあるひき算」

減々法、減加法の双方を一緒に扱いながら、教材を工夫して繰り下がりの手続きを実感的につかむために工夫された授業。17 個の卵から 5 個使ってオムレツを作るときに残る個数を求める問題を解決した後に、さらに卵を 5 個使ってオムレツを作るときに残る個数を求める課題に取り組みさせる。新しいパックを先に開けるか、後から開けるかを計算の仕方と結び付けて考えて説明する展開により、言語活動の充実を図っていた。

(2) 5 年〔C 図形〕「図形の合同」

普通紙にかかれた三角形や四角形とトレーシングペーパーにかかれた三角形や四角形を見比べたり重ね合わせたりする算数的活動をとおして、合同な図形の性質を調べる授業。トレーシングペーパーにかかれた図形は、ぴったり重なるかを調べるのに効果的だった。この算数的活動をとおして、合同な図形の概念形成が図られたと思われる。

3 教育課程編成上の Q&A

Q1 算数的活動をどのように設定すればよいか。

A1 児童が目的意識をもって、主体的に取り組む算数にかかわりのある様々な活動を指す。解説に示されている 29 の例を、そのとおりに行うこともあるし、類似した活動を取り入れることも考えられる。また、示されていない算数的活動を各学校や教師が工夫して取り入れていくようにする。

Q2 言語活動の充実を図るためにどんな点に配慮すべきか。

A2 言語活動を充実させる目的は、思考力、判断力、表現力の育成である。算数での「表現」とは言葉だけではなく、数や式、図、表、グラフによる表現であるので、算数的活動の例の中で「表す」という表現が明記されているものに特に留意して指導したい。